

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2018. VOLUME.105

あぐ
れっ
しゅ
12

少しずつ手応えを感じています！



特集① JA十和田おいらせの
2018年を振り返る

特集② JA自己改革実践中！
シリーズ③生産資材購買事業

「みんなのよい食プロジェクト」とは、
これからの日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農家とJAグルー
プ消費者のみなさんと一緒に考えて
考え、行動していく運動です。



腕 じ ま ん

地域じまんのモノ語り

婚活でまな板作り

体験型が面白い！

当JAとJA青年部は11月3日、十和田市内で体験型婚活イベント「トワーレdeアモーレII」を開いた。30、40代の男女21人が地元食材を使った料理や、まな板づくりを体験し親睦を深めた。

昨年に続く2回目。初回は料理とランプづくりをメインに開き、参加した1組が結婚を予定している。今回は「ツナギでつなぐ」がテーマ。男性が青年部員や組合員家族の12人、女性は市内の他に八戸市、東北町から9人が参加した。



まな板づくりでは、女性はJAが用意したつなぎを着用。青森ヒバに好みの形を描き、のこぎり、やすりを使い、時間をかけて完成させた。八戸市の30代女性は「男性が力仕事をリードしてくれて頼もしく感じた」と話した。



青森ヒバを使ったまな板づくりを楽しむ参加者



また地元の野菜を使ってカレーやパンケーキ、ナンなどを作り、一緒に味わった。事務局の当JA農業総合支援室では「一緒に体験することで、会話が盛り上がっていた。今後も楽しめる企画を考えたい」と話す。

JA収穫祭レシピコンテスト最優秀賞(おつまみ部門)

テーマ食材 長ネギ

ネギトマ巾着

川田 梨子さんレシピ
(十和田市米田)

材料(2人前)

油揚げ…… 2枚 焼き海苔…… 1/2枚
長ネギ…… 1本 めんつゆ…… 大1
ミニトマト…… 4個 ピザ用チーズ…… 大4
大葉…… 4枚 爪楊枝…… 4本

作り方

- ① 油揚げを半分に切る。
- ② 長ネギは小口切り。ミニトマトは細かく切る。大葉はみじん切り。焼き海苔は手で細かくちぎる。
- ③ ボールに②を入れ、めんつゆ、ピザ用チーズを加えて和える。
- ④ ③を4等分にして、油揚げに詰め、爪楊枝でとめる。
- ⑤ フライパンで、両面に焼き目がつくまで弱火でじっくり焼く。



家にある食材を使って油揚げに詰めるだけ！野菜の旨みで揚げいらす



次回外務予定日 1/16(水)~20(日)

■平成30年12月11日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷

表紙写真紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.80

けいしょうびと

継承 × 人

三本木事業所管内

かんの さとし
菅野 悟志さん(47)

楽しい農業を目指す

日々寒さが増すなか、ナガイモの秋掘りに忙しくする。神奈川県から妻の実家へ単身移住し、今年から本格的に栽培に携わる。秋掘りは11月27日からはじまったばかり。「昨年より出来がいい」と、幸先の良いスタートに笑顔を見せる。畑に雪が積もるまで掘り取りが続き、10㌔収量2.5㌧以上を目指している。

妻の実家で農業

就農して1年8ヵ月ほどになる。2年ほど前、農業を営んできた義父が亡くなり、義母の「農業を続けたい」の思いをくみ、妻の実家の農業を継承している。

悟志さんは神奈川県に住んでいた時に、バイク事故で重傷を負い3年間、車イス生活を送ったことがある。一時は、一生車イス生活も覚悟した。就農を決意した理由について、「今まで迷惑をかけた妻からの頼みに応えた」と振り返る。

大変だから「やりがい」がある

今年から肥培管理など、重要な農作業を任されている。4月には、当JAのナガイモ育成塾、ゴボウ塾にも入塾し、学習している。また、JAの栽培暦を活用したり、JAの指導員や近所のベテラン農家、同世代の農家から「いつ、どんな時期に何の散布が必要なのか」を聞き、実践してきた。

農業は全てが初めてのことだらけ。「どんな仕事でも大変なことはある。農業も同じ。大変だからこそ、仕事はやりがいを感じられる」と、仕事に対する信念をもつ。



取材日…11/27

楽しい農業の土台作り

今後の目標について、「離れて暮らす家族がこの地に来てくれるような楽しい農業を築くこと」。妻が持つ「農業はつらい」のイメージを払しょくできるような自分が理想とする新しい農業への土台作りに励む。

自分に合った農業経営を模索中の悟志さん。「何をすれば、どんなものができるのか。自分たちの労働力で、質と収量を高めるためには、どの位の規模が妥当か。色んな人の話を聞き、目標にたどり着きたい」と話す。

プロフィール

かんの さとし 十和田市東栄
組合員=坂本 タミさん
家族構成/妻と子2人は神奈川県在住
義母、義祖父と同居
農業経営/ナガイモ(種イモ含)2㌧、ゴボウ1.2㌧
ニンニク1.1㌧
JA青年部や地区の運動会にも積極的に参加し、地域住民との交流も楽しんでいる。

金融部 **冬の貯めトク** キャンペーン

JAバンク青森

平成30年11月1日(木) ~ 平成31年1月31日(木)

貯めトク定期をご成約された方に

貯めトク定期

10万円以上の新規・増額でのお預入れ
お預入れ時に以下の取引のうち、いずれかのご契約がある方(新規お申し込み可)

JAカード 給与振込 年金振込 住宅ローン 自動車ローン 借入ネットバンク

店頭表示金利 **1年 10.1% 上乗せ**

どちらか **プレゼント!!**

濱文様 x CHORIS **ペンタマルバッグ**

kippis x CHORIS **マルチケース**

※詳細は本支店金融窓口でお問い合わせください。

金融部 **ローン相談会(本支店のご案内)**

毎月第3日曜日 9:00~15:00

相談会場	12月	1月
本店・下田支店 上北支店・七戸支店 むつ支店	16日	20日

新築・リフォーム、自動車の購入など、農業資金以外でも、各種ローンを取り扱っております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。相談にご来場いただいたお客様に粗品をプレゼントいたします。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。

JAネットローン 各種ローンがネットで仮申込みできます。24時間365日受付中 検索方法は「JAネットローン」で検索!!

年金来店感謝デー
期間: 12月14日(金)~18日(火)
12月は「そば」本支店各先着50名様にプレゼント

経済部 指導 やさい部 **予約購買で 生産資材コスト低減へ!**

予約購買は、当利用価格による購入と比較して、代金決算日と価格面で有利な設定となっています。また、予約注文書内にある「平成31年用農産登録申込書」にも記載し、合わせて提出願います。計画販売による有利販売で、所得増大に努めます!

「予約注文書」「農産登録申込書」の提出期限は、**12月28日(金)まで**。各支店・事業所・経済センター窓口へご提出下さい。予約注文された方に粗品を進呈中です。

もくじ contents あぐれっしゅ vol.105 **12**

特集① 4~6p
JA十和田おいらせの 2018年を振り返る

特集② 10~11p
農業と地域の未来のために JA自己改革実践中!
シリーズ③生産資材購買事業

金融部
・冬の貯めトクキャンペーン実施中!・ローン相談会
経済部 指導やさい部
・予約購買で生産資材コスト低減へ .. 2p

継承人 表紙写真紹介
菅野 悟志さん(三本木事業所管内) .. 3p

NEWS&TOPIC 地域の話 .. 7p
・JA青森県大会・子牛管理品評会で競う
・むつ支店ふれあい祭り一ほか

あぐれっしゅ情報① 12p
・平成30年産米販売要請報告
・平成30年産米集荷実績
・やさい販売要請報告

頭の体操 パズル? 13p

information 14p
・総務部、子会社...年末年始のお知らせ
・子牛市場・理事会だより
役員室のつぶやき

腕じまん
地域じまんのモノ語り .. 16p
婚活でまな板づくり~体験型が面白い~

JAの概況 平成30年11月末日現在

正組合員数/6,640人
准組合員数/5,208人
役員数/26人
職員数(准職・嘱託含)/288人
貯金高/800億2,912万円
貸出高/151億5,665万円

J A十和田おいらせの 2018年を振り返る

特集①



1月

15日 家族農業、協同組合の 必要性訴え

国際ジャーナリストの
堤未果さん講演
当JA主催の第6回「地域農業を
考える講演会」。堤さんは、集まった
350人を前に「家族農業と協同組
合は国の宝。100年先の地域や国
家の安全保障を守るため、絶対失っ
てはならない」と訴えた。



下旬 自己改革発信へパンフ制作

重点項目や実績を明記
「所得増大」「生産拡大」「地域活
性」に向けた、当JAの取り組みを
紹介するパンフレットを制作し、組
合員へ配布。種苗費助成や出向く指
導体制の強化など実施計画に加え、
台風被害への支援、ニンニクの優良
種子増産などの成果を明記した。

2月

23日 「春待白清」はるまちしらぎら 県基幹種雄牛に指定

肉質良い兵庫系
十和田湖支店管内の奥瀬牧野組
合が生産した黒毛和種「春待白清」が
県基幹種雄牛に指定された。県内10
頭目。県が県和牛改良推進協議会の
指定を了承し同日、正式発表した。

28日 地域のために一役

イワシ回収に一役
横浜町の海岸にイワシの死骸が大
量に散乱しているのを受け、JA野
菜振興会横浜町支部のメンバーとJ
A職員ら15人が、町のボランティア
に参加し、回収作業に協力した。

1日 特産ニンニク食べて

定期貯金を限定発売
当JAの総貯金高800億円達
成を記念し、特別金利に加えて特産
品のプレミアムにんにくギフトを
プレゼントする定期貯金「きらめき
定期」を組合員限定で発売した。

上旬 農協功労表彰に 竹ヶ原組合長

JA全中は、平成29年度の表彰農
協と農協功労者を発表。竹ヶ原組合
長は、農協の発展に対する長年の功
労と功績などが評価された。

3月

中旬 集配拠点へ倉庫新設

機能強化やコスト減
十和田市清水に資材配送セン
ター第2倉庫を新築。収容能力は4
万7000袋（1袋20キロ）、平成29
年3月完成の第1号倉庫と合わせ
て約10万袋になる。生産資材の配
送拠点とし、JA全体の配送や在庫を
一元管理、事業の機能強化とコスト
低減を図る。

23日 29年度 所得増、生産拡大へ 約1億4300万円支援

面積拡大の種苗費助成、
利用奨励金など支払い
▼やさい産地拡大事業に関わる種
苗費、土壤診断料の助成として、対
象農家延べ1324戸へ約150
0万円を支援
▼やさい集荷対策金として、対象農
家1621戸へ6千万円助成
▼肥料農薬・ダンボール奨励金と
して、対象の延べ3533件に約6
700万円支払い。

下旬 水稲の防除薬剤費一部助成

支援金920万円
平成29年度の農作物低温長雨支
援対策として、各要件を満たした農
家組合員へ水稲穂揃い期の防除薬
剤費一部を助成。対象の1832戸
へ総額920万円を支援した。

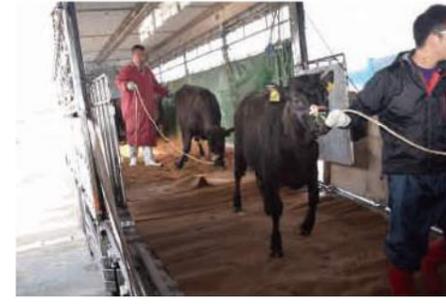
4月

1日 所得増大へ事業体制強化

JA機構の変更を実施
「審査課」が金融部から独立、新設
の「企画部」には、産直施設の設置に
向け「産直準備室」を設けた。人事管
理強化に向け、総務部に「教育人事
課」を新設。経済事業の物流改革と
して、経済部に「物流課」を新設した。

22日 「白鵬85の3」の産子導入

子牛の主産地づくりへ
十和田市黒毛和種改良組合が、産
肉成績で全国トップクラスの能力
を持つ鳥取県の基幹種雄牛「白鵬8
5の3」を父とする雌子牛12頭を初
めて導入。30年度は、10月の子牛市場
で計画通り40頭導入になった。十和
田市が1頭当たり20万円を助成、J
Aは購買責任者の旅費などを助成
し支援した。



6月

29日 JA牛肉まつり盛況

本店構内でJA牛肉まつりを開
き、来場者900人が地元産「十和
田湖和牛」の焼き肉を堪能した。

8日 若手農業者パワーアップ大会

300人集い産地振興誓う
45歳以下の若手農家を集めた「若
手農業者パワーアップ大会」を初め
て開いた。「地域を超えた仲間づく
りの場」を提供。栽培に関する情報
交換などで交流を深め、生産への士
気を高めた。



6月

26日 第8回通常総代会 8期連続の黒字決算

当期剰余金3億879万円を計上
農畜産物の販売高は178億8
364万円で、野菜の販売高が84億
4045万円、米穀41億1676万
円、畜産は肉牛の単価高などにより
53億2642万円となり、販売全体
で計画を上回った。



1日 JA自己改革の推進へ

職員意識向上、対話運動強化
8月から一斉外務の際に「不在連絡
票」を広報誌に同封する取り組みを始
めた。農家組合員との対話のきっかけ
づくりにつなげる。また同月、職員の
改革意識向上へ日本農業新聞の全職
員購読運動をスタートした。



8月

22日 被害小麦ゲタ対象に

長雨で農政局へ要請
自然災害による小麦被害への対
応として「畑作物の直接支払交付金
(ゲタ対策)」の支払いについて、青
森市の東北農政局青森県拠点、地方
参事官へ要請。面積払いの10戸当
り2万円について、規格外小麦を特
例として適用対象とすることを要
望した。



25日 肉用牛黒毛和種の部で 初の団体優勝

農工園千里平(十和田市)が和牛2冠
第15回青森県畜産共進会(七戸
町)の肉用牛黒毛和種の部で、当J
Aが初の団体優勝に輝いた。

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。



元気な農業10年後も

～農業産出額3,000億円確保へ～

JAグループ青森は11月30日、「10年後も元気な農業と地域をめざして」をテーマに、第28回JA青森県大会を青森市で開いた。県内各JAの組合員や役員ら約500人が出席した。農業就業人口や耕作面積の減少など、県内農業の現状と課題を共有し、今後3年間で取り組む4つの重点目標を決議した。日米物品貿易協定交渉(TAG)について、交渉内容の開示による国民的議論の実施や、これまでの国会答弁を順守するよう強く求めた。



▲10年後も元気な農業、地域を目指すことを決議した大会

大会で決議した重点目標は「元気な農業へ発進」「豊かな暮らしへ発進」「組織・経営基盤の強化」「食・農・協同組合の理解醸成」の4項目。10年後も本県の農業産出額3,000億円、食料自給率100%を確保するため、大会決議の実践を通じ地域と農業の課題改善や発展に取り組む。

安心な地域づくりに役立てて

～全共連が見守り支援活動 車両3台寄贈～

全共連青森県本部から、高齢者等地域見守り活動支援車両3台が寄贈になった。小山主税本部長が11月20日、当JAを訪れ竹ヶ原幸光組合長に目録を手渡した。

全共連の地域貢献活動の一環。小山本部長は「地域住民の安心な生活を守るために活用して欲しい」と述べた。

寄贈車両はスズキワゴンRで1月中旬に納車。JAでは定期巡回し、見守り活動に努めていく。



▲小山本部長から目録を受け取る竹ヶ原組合長(写真右)

高品質なナガイモ出荷へ

～県下統一目ぞろえ会～

高品質な「青森県産ながいも」の出荷に向け、JA全農あおもりは11月14日、十和田市の上十三広域農業振興会で「県下統一目ぞろえ会」を開いた。県南4JA(十和田おいらせ・おいらせ・ゆうき青森・八戸)からJA職員、JAの作業員ら150人が参加し、出荷規格を確認した。

全農あおもりによると、県内産の作柄は細長い傾向にあるという。管内の秋掘りは11月中旬から本格化する。ナガイモの葉は黄色や茶色に変わり、同月中旬は収穫に向けてネットに絡んだ蔓の切り落とし作業が進んでいた。



▲出荷規格を確認するJA作業員ら

10月

20.21日 収穫祭に1万3千人



本店で収穫祭を開き、2日間で13000人が訪れにぎわった。来場者は管内産野菜や米、牛肉を買い求め、演歌歌謡ショーや食の屋台などの催しを楽しんだ。8月から11月にかけて開催した7支店のJAまつりには計1万4千人の来場があった。

組合員、地域住民とふれあい

タブレット端末での「ペーパーレス会議」を始めた。会議方法の改善と、事務の効率化、紙代などのコスト削減につなげる。

25日 会議、事務の紙を削減

タブレット端末導入

30年産米「まつしぐら」の概算金を決定。1等60キロ12000円と前年産米より500円上げとした。

15日 30年産米「まつしぐら」概算金500円上げ

12月

13日 JA自己改革 女性目線で検証と挑戦

竹ヶ原組合長と女性理事JA女性部長との新春対談 営農と生活の両面で、JA自己改革への理解促進、女性のJA運営参加の推進を目指す。

11月

30日 元気な農業10年後も

産出額3000億円確保へ JA青森県大会 「10年後も元気な農業と地域をめざして」をテーマに、JAグループ青森は第28回JA青森県大会を青森市で開いた。

31日 米作況平年並み

受託を充実、所得向上へ ダイコンとニンジン等の収穫機械を1台ずつ、昨年に続いて導入、更新した。農家の作業負担の軽減に加え、適期収穫による高品質出荷で農家の所得向上を目指す。

25日 野菜の収穫 効率追求

豊洲市場が開場

東京都中央卸売市場豊洲市場(江東区)が10月11日、開場した。当初計画の2年遅れのオープン。83年続いた築地市場に代わる「東京の台所」として、伝統を引き継ぐ。全国でも珍しい閉鎖型施設が特徴。青果物の温度が変化せず、低温のまま消費者に届くコールドチェーンを整えた。

リンゴ黒星病がまん延

全国的にリンゴ黒星病の感染が拡大。全国一の生産量がある青森県では全域で黒星病が発生した。

日米物品貿易協定(TAG)の交渉入りに合意

安倍晋三首相はトランプ米大統領と会談し、日米の全ての物品を対象にした日米物品貿易協定(TAG)の交渉入りに合意した。実質的な自由貿易協定(FTA)交渉となる懸念がある。

TPP 12月30日発効

米国を除く11カ国の環太平洋連携協定(TPP11)が12月30日に発効することが確定した。TPPにより、輸入農林水産品の82%の関税が撤廃され、重要品目も関税削減や輸入枠が設定される。日本農業は過去にない市場開放を迎える。

2018年 重大 NEWS

情報提供...日本農業新聞東北支所

金足農高が準優勝

第100回全国高校野球選手権大会で、秋田県金足農業高校が農業高校として戦後初の準優勝に輝いた。日本中に「金農旋風」を巻き起こした。

東北襲った異常気象

6月から東南北部は高温少雨、東北北部は長雨に見舞われた。水稻の品質、減収への懸念が強まった。青森県ではこの時期としては珍しい長雨となった。

外国人材拡大

政府は、外国人労働者の受け入れ拡大に向けて、新たな在留資格を創設する出入国管理法などの改正案を閣議決定した。労働現場での就業を本格的に外国人に開放し、受け入れ施策の大転換となる。

2018年産概算金、主力銘柄が500円高中心

18年産米の「JA概算金」は、主力銘柄が前年産から60キロ当たり500円前後上げ、1万3,000円台が中心。米の直接支払交付金(107-7,500円)が廃止された影響を抑えるため、産地は農家の所得確保を意識した設定となった。